

2023. 6. 19.

2023 年度 児童・少年の健全育成助成（実践的研究助成）の選考を終えて

児童・少年の健全育成助成選考委員会 委員長 松見淳子

日本生命財団 創立 40 周年記念特別事業の一環として、2020 年度よりスタートいたしました児童・少年の健全育成助成（実践的研究助成）は、本年度、4 回目の選考を終えることができました。

当助成は、「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」をテーマに、研究チームは現場の実践家（医師、教師、保育士等）を含めて構成いただく等を特色として、**研究成果の社会還元・社会実装を目指すもの**となっております。

とりわけ本年度は、こうした目指す方向を少しく明らかにするため、ご申請に際して『**社会実装に向けた具体的構想について（申請書第 8 項）**』を加えさせていただくことといたしました。おかげさまで、多くの方々に当助成の趣旨をよくご理解いただき、優れた内容のご申請を多数いただきましたこと、深く感謝を申し上げます。

募集に際しては、**2つの重点助成分野【第 1 分野；教育、予防的対処等を図る分野、第 2 分野；療育的対処等を要する分野】**を掲げ、また、多くの研究者や実践家が応募できるよう各重点助成分野に関連するキーワード・キーフレーズを明瞭に示すとともに、**2 年助成と 1 年助成の 2 つのプログラム**を設定しています。

1. 応募状況

全国から 2 年助成 39 件、1 年助成 41 件、合計 80 件の応募がありました。全体といたしまして、昨年度より約 30% 多いご応募をいただきました。

	応募件数	内、第 1 分野	内、第 2 分野
2 年助成	39	24	15
1 年助成	41	23	18
合計	80	47	33

分野別では、教育、予防的対処等を図る第1分野が約6割、療育的対処等を要する第2分野が約4割でした。

申請者についてみると、教育、保育、医学、看護、心理の分野の他に、芸術大学の研究者、学校教員、NPO法人の代表者、と様々な分野にわたっております。

また、1年研究は大学院博士課程在籍者も助成対象としており、6名の申請がありました。

2. 選考結果

選考委員会では、個々の申請について、研究の意義、研究デザインの妥当性、社会への貢献等から選考を行い、2年助成が4件、1年助成が5件、合計9件が新たに選出されました。分野別では、第1分野が5件、第2分野が4件となっております。

	採択件数	内、第1分野	内、第2分野
2年助成	4	3	1
1年助成	5	2	3
合計	9	5	4

採択となった研究は、第1分野では、地方自治体で実施できるコペアレンティング（夫婦協働育児）に関する教育プログラム・教育媒体の完成を目指すものや、第2分野では、学校の養護教諭の現場実践力向上に向け、オンデマンドによるEラーニングシステムの開発を行うもの等、どれも課題性の高いテーマとなっております。

1年助成については、1名の大学院博士課程在籍者が採択され、今後の活躍が期待されるところです。

これからも引き続き、当助成のテーマ「子どもを巡る『真のウェルビーイング』の探求」のもと、研究成果の社会還元さらには社会実装に向け、皆さまとともに歩みを進めて参りたいと存じます。

以上